



【2016年4月18日～4月22日】

1. 先週の市場動向

【先週の市場の振り返り】

	先々週末	先週末	
<株式>	2016/4/15	2016/4/22	前週比
NYダウ（米国）	17,897.46	18,003.75	0.59%
日経平均株価（日本）	16,848.03	17,572.49	4.30%
DAX指数（ドイツ）	10,051.57	10,373.49	3.20%
FTSE指数（英国）	6,343.75	6,310.44	▲0.53%
上海総合指数（中国）	3,078.12	2,959.24	▲3.86%
香港ハンセン指数（中国）	21,316.47	21,467.04	0.71%
ASX指数（豪州）	5,157.49	5,236.37	1.53%
<リート>	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	183.99	181.37	▲1.42%
<債券>（利回り）（%）	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	1.752	1.888	0.136
日本10年国債	▲0.115	▲0.110	0.005
ドイツ10年国債	0.127	0.231	0.104
英国10年国債	1.414	1.600	0.186
<為替>	先々週末	先週末	前週比
ドル円	108.76	111.79	2.79%
ユーロ円	122.72	125.50	2.27%
ユーロドル	1.1284	1.1222	▲0.55%
豪ドル円	84.01	86.17	2.57%
<商品>	先々週末	先週末	前週比
商品（CRB指数）	173.64	179.65	3.47%
原油先物価格（WTI）	40.36	43.73	8.35%

<株式>

世界の多くの株式市場は上昇しました。原油価格が引続き上昇したことで、市場心理が改善し、運用リスクを取りに行く投資家が増えたことが背景です。米株式市場でNYダウは節目の18,000ドル台を回復し、昨年5月の過去最高値に近づきました。ドイツDAX指数も、3%超上昇しました。一方、中国株式市場では、上海総合指数が上値の重さから大幅に反落し、心理的な節目の3,000ポイントを割り込んで取引を終了しました。日本の株式市場では、日経平均株価が大幅に上昇し、2月以来の高値を付けました。日銀の金融政策決定会合を控えて追加緩和期待が高まりました。

<債券>

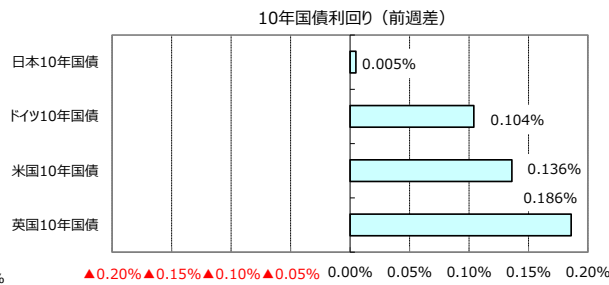
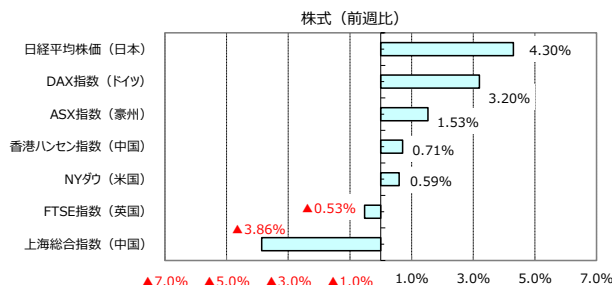
日米欧の債券利回りは上昇しました。原油価格の上昇で投資家のリスク回避姿勢が後退し、安全資産の債券が売られました。米国10年債利回りは1.888%と、約1ヵ月ぶりの水準に上昇しました。同様にドイツ10年国債の利回りも0.231%に上昇しました。日本の10年国債利回りは▲0.110%に小幅上昇しました。債券需給が引き締まっていることが金利上昇の抑制要因となりました。

<為替>

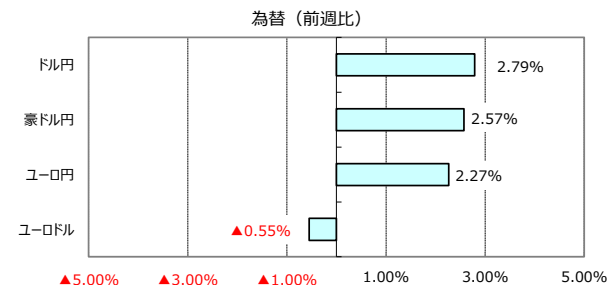
円相場は、リスク回避などで進んだ急激な円高の巻き戻しが入り、対ドル、対ユーロで下落しました。市場では、日銀が金融政策決定会合で追加緩和に動くとの観測が強まりました。円は対ドルで111円台に、対ユーロでは125円台に下落しました。

<商品>

原油先物価格は、前週の40ドル台から43ドル台に上昇しました。主要産油国は生産量凍結で合意できませんでしたが、原油の供給過剰が年後半に向けて緩やかに解消に向かうとの見方が強まりました。



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。



※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



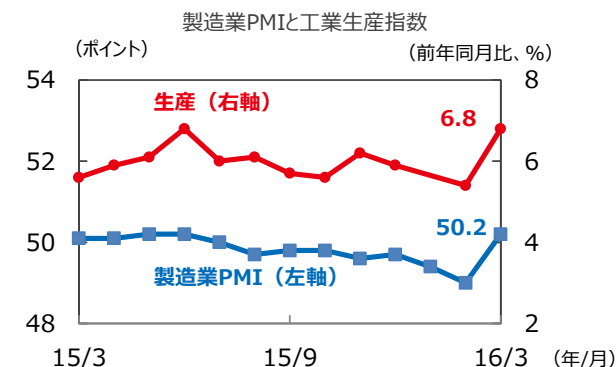
【2016年4月18日～4月22日】

2. 先週のマーケット・デیلیー/ウィークリー

	テーマ	ポイント
4/18 (月)	先週のマーケットの振り返り	2016/4/11～4/15マーケットの振り返り
4/18 (月)	中国の実質GDP成長率 (2016年1-3月期)	1. 予想通りの6.7%成長、株式市場の反応は限定的 2. 16年前半の景気感是好調、16年4-6月期は6.8%成長へ 3. 【年後半以降は緩やかな減速に。市場は構造改革の進展に期待】年後半は緩やかな減速が予想されます。中国政府としては、減速を緩やかなものに留めつつ、成長目標の達成と構造改革の推進が重要課題です。市場も引き続き、国営企業の改革など構造改革の進展に期待を寄せています。
4/18 (月)	日本株式市場の足元の動向 と今後の見通し	1. 日本株は大幅安、円高・原油安が進行 2. 産油国会合不調が原因、需給改善の期待が遠のく 3. 【政府の経済対策の規模や内容に注目】5月中に発表されると見られる経済対策は、年後半の日本株の方向性に大きな影響を与えられそうです。消費増税の延期判断や補正予算の規模、内容等が市場に好感されるものとなるかが重要です。
☆ 4/19 (火)	最近の指標から見る中国経済 (2016年4月)	1. GDP減速は予想の範囲、3月の景気指標は回復 2. 製造業の景気感が改善、政策効果で投資が上向き 3. 【中国政府の景気下支え策により、16年前半は持ち直しへ】中国政府による金融緩和と政策や財政政策などが追い風となっています。製造業の景気感が改善していることから、当面景気は持ち直しの動きが期待されます。4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.8%に上向く見通しです。
4/20 (水)	資源価格の動向	1. 原油は上値が重い展開に、産油国会合で意見まとまらず 2. 鉄鉱石市況是好調、中国の鋼材市況が急回復 3. 【原油は産油国の協調、鉄鉱石は鋼材市況がポイント】世界の鉄鋼株や鉄鉱石関連株は、中国の鋼材市況の回復を受けて、急上昇しています。中国の鋼材市況は、中期的には鉄鋼メーカーの増産により需給が悪化するリスクがありますが、当面は堅調な展開が予想されます。
☆ 4/21 (木)	トルコの金融政策 (2016年4月)	1. 上限金利を0.50%引き下げ、主要な政策金利は据え置き 2. 金融引き締め姿勢を継続、景気は安定的に拡大 3. 【リラは底堅い推移継続へ】中銀総裁は新任のチェティンカヤ氏に変わりました。市場の一部に見られた金融緩和方向にスタンスを変えようとの懸念は一旦は払拭された模様です。安定的な経済成長、引き締め姿勢の金融政策を受け、リラは堅調な推移が続くと見られます。
4/22 (金)	最近の指標から見る豪州経済 (2016年4月)	1. 労働市場は緩やかな改善基調、家計セクターは底堅く推移 2. 物価は低位で推移、政策金利は当面、据え置き 3. 【緩やかな景気拡大を背景に、株式、為替とも底堅く展開へ】物価の低位安定、資源価格の持ち直しを合わせて考えると、豪州株は底堅く推移すると見られます。豪ドルの対円レートは徐々に落ち着きを取り戻してきました。中長期では日豪金利差の拡大などから、底堅く推移する見通しです。

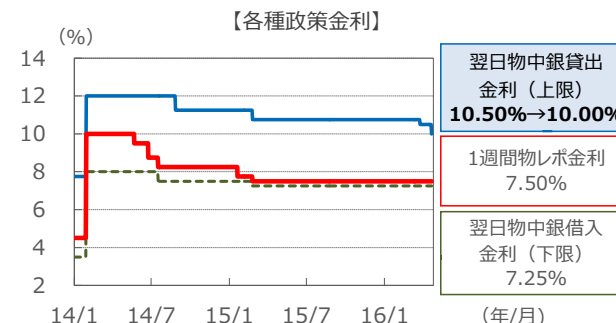
☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆ 4/19最近の指標から見る中国経済 (2016年4月)
景気減速傾向にいったん歯止め



(注) データは2015年3月～2016年3月 (工業生産指数は1月を除き、2月は1-2月の前年同期比)。製造業PMI (購買担当者景気指数) は国家統計局による発表、好悪の判断の境目は50。数字は2016年3月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆ 4/21トルコの金融政策 (2016年4月)
金利誘導レンジの上限を引き下げ



(注) データは2014年1月1日～2016年4月20日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2016年4月18日～4月22日】

3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
4/25 (月)	3月新築住宅販売件数	2月景気動向指数（確報）	ドイツ4月Ifo景況感指数	メキシコ2月小売売上高
4/26 (火)	3月耐久財受注・製造業受注 2月S&P/ケース・シーラー住宅価格指数 4月消費者信頼感指数			香港3月貿易収支
4/27 (水)	連邦公開市場委員会（FOMC、26日～27日）☆ 3月中古住宅販売件数	2月全産業活動指数 4月中小企業景況判断	英国1-3月期GDP ユーロ圏3月マネーサプライ	ブラジル金融政策決定会合 ☆ 豪州1-3月消費者物価指数
4/28 (木)	1-3月期GDP（速報値）	3月全国消費者物価指数 3月家計調査 3月完全失業率・有効求人倍率 3月鉱工業生産指数 3月住宅着工件数 日銀金融政策決定会合 ☆	ユーロ圏4月消費者信頼感 ドイツ4月消費者物価指数	
4/29 (金)			ユーロ圏1-3月期GDP ☆ ユーロ圏4月消費者物価指数	メキシコ1-3月GDP
☆ 今週の注目点	今回のFOMCでは、政策金利の据え置きが予想されています。FOMCの声明文での景気認識が注目されます。	物価が期待ほど上らず、国内景気の停滞感が強まる中、日銀の金融政策決定会合が注目されます。	今後の欧州中央銀行（ECB）の金融政策を予想するうえで、ユーロ圏の1-3月期のGDPが注目されます。	ブラジルは景気が低迷するなか、インフレの加速と通貨安に直面しており、金融政策が注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

先週の注目の「マーケット・デイリー」

2016年 4月19日 最近の指標から見る中国経済（2016年4月）【デイリー】

2016年 4月21日 トルコの金融政策（2016年4月）【デイリー】

先週の「マーケット・ウィークリー」

2016年 4月 18日 先週のマーケットの振り返り（2016/4/11-4/15）【ウィークリー】

先月の「マーケット・マンスリー」

2016年 4月 4日 先月のマーケットの振り返り（2016年3月）【マンスリー】

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2016年 4月21日 「Brexit」英国のEU離脱（欧州）【キーワード】

弊社マーケットレポート

検索!!



【2016年4月18日～4月22日】

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用 … 申込手数料 **上限3.78%（税込）**

… 換金（解約）手数料 **上限1.08%（税込）**

… 信託財産留保額 **上限3.50%**

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用 … 信託報酬 **上限年 3.834%（税込）**

◆その他費用 … 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託（基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。）における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2016年3月18日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。